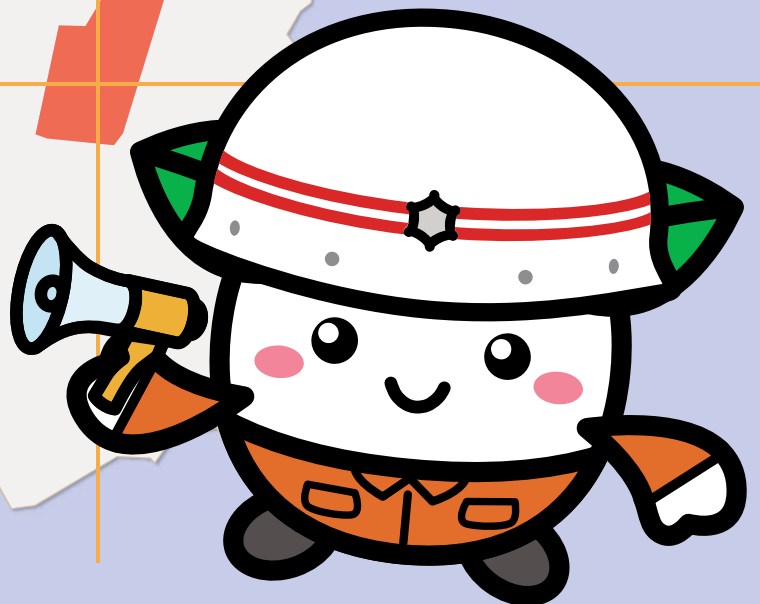


天王寺区 防災 ハンドブック

保存版



はじめに

今後30年以内に、南海トラフ沿いで70～80%の確率でマグニチュード8～9クラスの地震が発生するといわれています。また、天王寺区では上町断層帯を震源とする地震が発生した場合、最大震度7と予想されています。近年では毎年のように各地で地震や台風、ゲリラ豪雨による被害が発生しています。

こういった災害に対して、あなたの備えは十分でしょうか？

“減災”には、自分（家族）の命を自分（家族）で守る「自助」、地域の皆さんで助け合う「共助」、行政による支援である「公助」、これらの連携が大切です。

この防災ハンドブックは、令和4年3月に改定した「天王寺区防災計画」を元に、区民の皆さんに取り組んでいただきたい「災害への備え」を中心に、手に取って読みやすいように再編集したものです。

「まさか」の災害に対する「いつも」からの備えとして、この防災ハンドブックをご活用ください。

令和4年3月

大阪市天王寺区役所

目次

地震編 3

地震編 天王寺区の災害想定・・・ 3

災害から身を守る 6

日ごろから備える 7

家庭で防災の話し合いをする 7

非常持ち出し品・非常備蓄品
を用意する 8

家屋の耐震対策、家具の転倒
防止対策を行う 10

家族や友人との連絡方法など
を決めておく 11

大地震発生 12

まずは「いのち」を守る・・・ 12

揺れがおさまったら 13

今後に備える 14

避難生活 17

風水害編 19

風水害編 天王寺区の災害想定・・・ 19

風水害の備え 22

【災害時の連絡先】 25



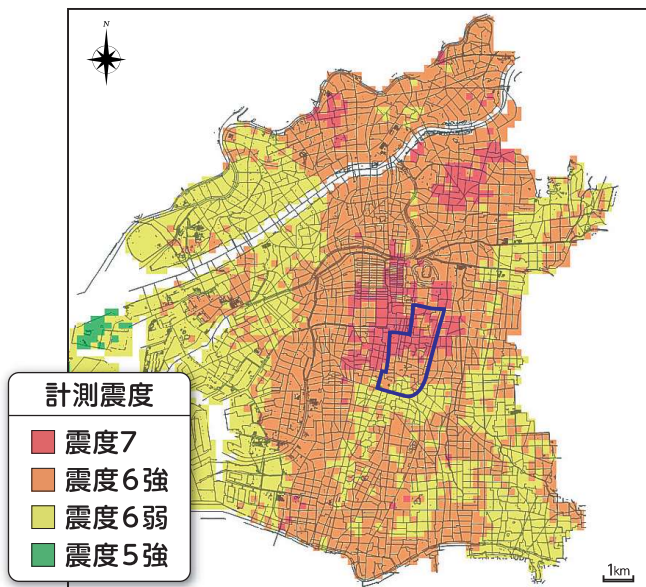
天王寺区の災害想定

上町断層帯地震

内陸活断層による地震として今後30年以内に2~3%の確率で発生するとされています。天王寺区では震源から近い場所に位置するため大きな被害が想定されています。

地震規模	マグニチュード7.5~7.8
天王寺区の最大震度	6弱~7
最大死者数	573人
建物の全半壊	6,813棟
停電率*	約64%
ガス供給停止率*	約81%
水道断水率*	約45%
電話不通率*	約13%

*ライフラインの被害については、大阪市全体の被害想定である。



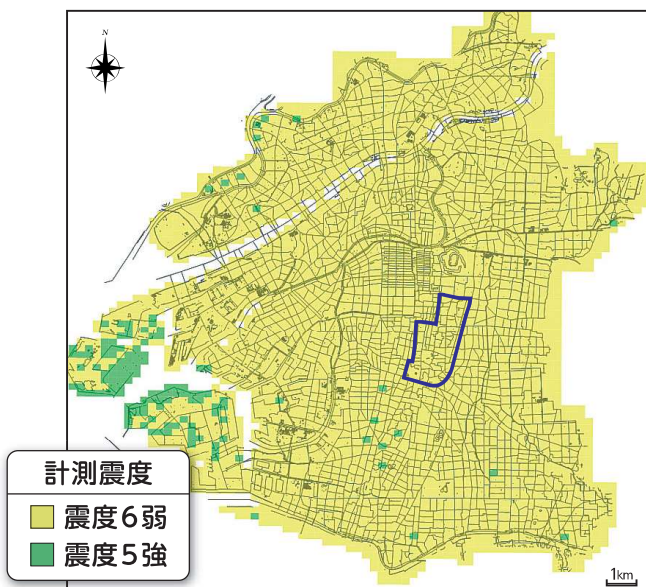
【出典】大阪市地域防災計画〈震災対応編〉(令和3年4月)

南海トラフ巨大地震

今後30年以内に70~80%と高い確率で発生すると予想されている海溝型地震で、東海地震、東南海地震、南海地震の3つの地震が連動して同時に発生した場合、西日本を中心に甚大な人的・物的被害が想定されています。

地震規模	マグニチュード9.1
天王寺区の最大震度	6弱
最大死者数	3人
建物の全半壊	2,106棟
停電率*	約49%
ガス供給停止率*	約53%
水道断水率*	約30%
下水道機能支障率*	約5.4%
電話不通率*	約48%

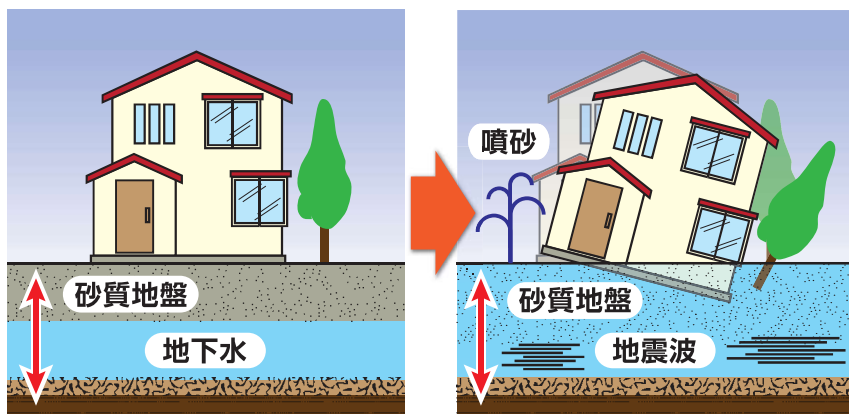
*ライフラインの被害については、大阪市全体の被害想定である。



【出典】大阪市地域防災計画〈震災対応編〉(令和3年4月)

地震により想定される被害、現象

液状化現象



地震の際に、地下水位の高い砂質地盤が振動により液体状になる現象です。液状化現象が起こると、比重の大きい構造物が埋もれたり、倒れたり、地中の比重の小さい構造物（下水管・マンホール等）が浮き上がったりします。

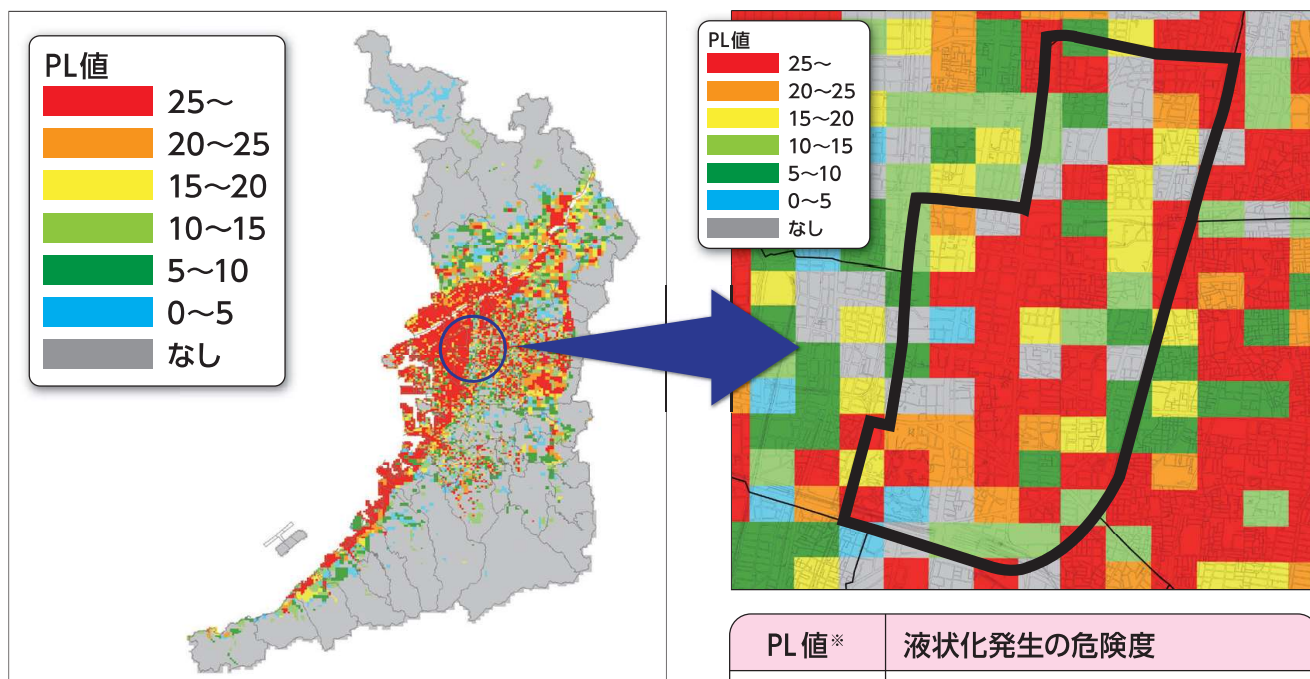


●マンホールが浮き上がった様子



●道路が陥没した様子

南海トラフ巨大地震による液状化可能性図



【出典】大阪府防災会議
南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会
平成25年度公表資料

※ PL値（液状化危険度の判定指標）
PL: Potential of Liquefactionの略

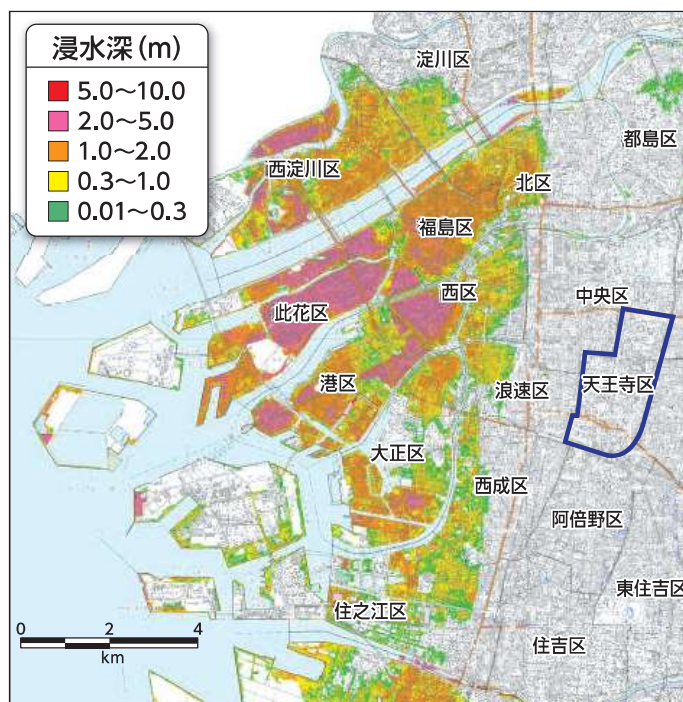
PL 値※	液状化発生危険度
0（なし）	液状化発生の可能性がない。又は非常に低い
0～5 以下	液状化発生の可能性が低い
5～15 以下	液状化発生の可能性が高い
15～	液状化発生の可能性が非常に高い

津波の浸水予測

南海トラフ沿いで起こる地震では津波が発生する恐れがあります。

天王寺区は津波による浸水想定がありませんが、海岸付近では早いところで地震発生から**110分**で津波が到達し、満潮時では場所によって**6m**を超える大津波になると想定されています。

【出典】H24.8.29内閣府
南海トラフの巨大地震モデル検討会(第二次報告)
津波の浸水分布図(大阪)
【ケース④「四国沖」に大すべり域を設定、
堤防条件：地震発生から3分後に破壊する】



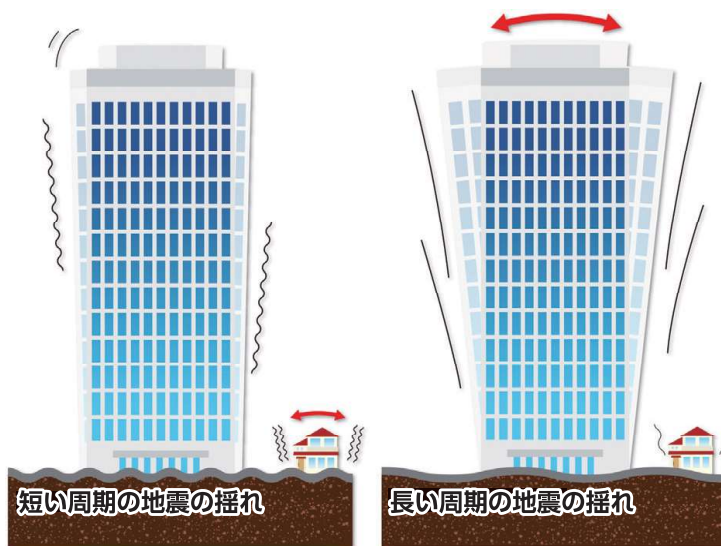
長周期地震動

南海トラフ巨大地震のような大きな規模の地震が発生すると、周期（揺れが1往復にかかる時間）の長い、ゆっくりとした大きな揺れ（地震動）が発生します。このような地震動のことを長周期地震動といいます。

一方、建物には固有の揺れやすい周期（固有周期）があります。

地震波の周期と建物の固有周期が一致すると共振して、建物が大きく揺れます。高層ビルの固有周期は低い建物の周期と比べると長いため、長周期の波と共振しやすく、共振すると高層ビルは長時間にわたり大きく揺れます。また、高層階の方が大きく揺れる傾向があります。

長周期地震動が発生すると、固定していない家具などの移動が起きやすく、避難通路遮断や負傷の原因となるほか、家具の引き出しが飛び出したり家具が転倒する恐れがあります。



【出典】地震調査研究推進本部

気象庁
「長周期地震動とは？」

